



核兵器廃絶への思いを込めてアニメの主題歌を歌うひろしま平和大使の美帆シボさん(右から2人目) 5日午後、広島市

反戦の願い 歌に

ひろしま平和大使 美帆さん

旧金谷町出身

旧金谷町(現島田市)出身で、海外で核兵器廃絶活動に取り組み「ひろしま平和大使」の美帆シボさん(65)が5日、広島市で行われた被爆者団体の集いに参加し、平和への思いを込めて歌声を披露した。広島、長崎両市への原爆投下から70年の夏、「音楽やアニメなどの芸術作品を通じ、若者に原爆の悲惨さや

平和の尊さを伝え続けたい」と意欲を語った。取り上げた歌は、自身が制作発起人を務めたアニメ映画「つるにのって」(1993年)の主題歌「あの子は見てる」。原爆の後遺症により12歳で亡くなった佐々木禎子さんの思いや放射線の恐ろしさを伝える作品のテーマ曲を、親交がある広島市の音楽グループ「広島ジュニア・マリンバ・アンサンブル」の演奏に合わせて歌った。「つるにのって」は、美帆さんがフランスで「原爆投下」と声を上げながら遊ぶ子どもの姿にショックを受けて制作を決意した。日本語版を皮切りに英、仏、インドウー、イタリア語などの吹き替え版が制作され、今も世界各国で上映されている。昨年、広島市にひろしま平和大使に任命さ

れ、核兵器廃絶への思いを一層強めた美帆さん。「証言者が高齢化している。世界の若者に被爆者の思いをどう伝えていくか考えていく」と、これからの活動を見据えた。6日に広島市、9日に長崎市でそれぞれ行われる平和記念式典にも、フランス平和首長会議顧問の立場で、同会議事務総長の夫ミッシェルさん(67)と出席し、哀悼の意を表明する。